

明治、大正、昭和初期の子ども向け雑誌のデジタル化

一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 (IICLO)

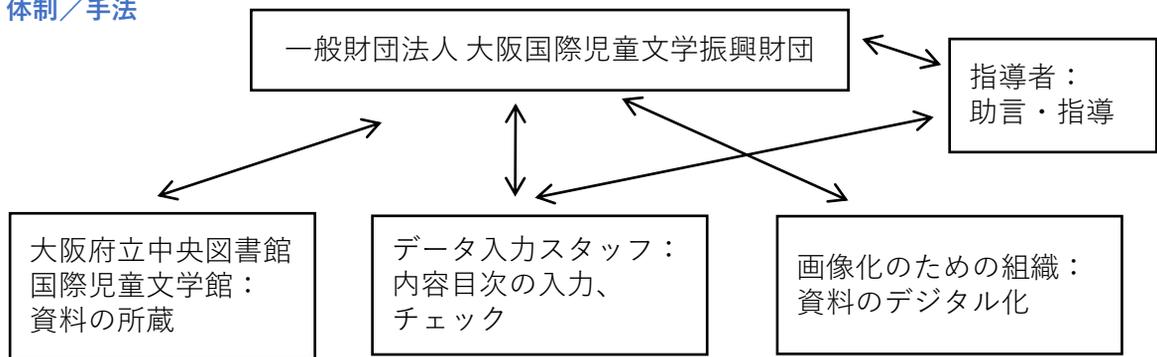
概要

明治、大正、昭和初期の子ども向け絵雑誌には多くのマンガや絵物語が掲載されており、同時代や後代のマンガ家・画家等に少なからず影響を与えたことはよく知られている。しかし、資料の所蔵機関が少ないことからその全貌は明らかではなく、現代のマンガ文化等との影響関係を論じることを困難にしている。そのような状況の中、大阪府立中央図書館国際児童文学館には『子供マンガ新聞』、『少女画報』、幼年や少年向けの雑誌など、明治期から昭和初期に発行された多くの貴重な児童雑誌が所蔵されており、国際児童文学館にしか所蔵がない巻号も多く含まれる。

資料の劣化が激しいこれらの雑誌をデジタル画像化し、内容目次を含めて公開することは我が国のメディア文化の発展に大きな意義がある。

そこで、本事業では『子供マンガ新聞』、『少女画報』等の雑誌の保存のためのデジタル化、内容目次の入力を行う。

体制／手法



成果

(成果物)

- ・ 『子供マンガ新聞』 他の379点の雑誌の画像データ
- ・ 『子供マンガ新聞』 他の379点の雑誌の画像からの紙焼きデータ
- ・ 『子供マンガ新聞』 他の379点の雑誌の内容目次データ

(公開方法)

- ・ 紙焼きデータ：大阪府立中央図書館国際児童文学館内にて閲覧
- ・ 内容目次データ：文化庁メディア芸術データベースでの利用
国際児童文学館への提供、レファレンス等での利用

(残された課題)

- ・ 画像データのオンラインでの公開：著作権等権利関係の整理、公開の仕組みづくり
- ・ 内容目次データの公開：独自の公開ツールの開発
- ・ 国立国会図書館未収かつ入手困難資料のデータ収集事業への協力の検討

(文化的・社会的・経済的な意義)

- ・ 国際児童文学館が所蔵する貴重な雑誌資料の画像化は、国の文化財の保存と利用につながる。
- ・ 雑誌の内容目次の入力によって、これまで見過ごされてきたマンガ家、マンガ作品等の情報が明らかになり、マンガ研究のみならず、児童文化学、教育学、社会学、メディア論、表象文化論等の研究成果が期待される。

